

回とか、3か月に1回とかネタが切れてきたので、減つては來てるんですけど、できるだけ毎月、お客様にハガキを出すようにがんばっています。

【情報発信】：リピーターの方が多く、何度も同じ観光地を巡っている、何度も同じことはしているという方が増えてきているので、新しい情報を提供したい、新しいこの地域の楽しみを提供したいと、最近思うようになります。ガイドブックに載っていないような観光情報といいますか、地域の人ですら見過ごしがちなお地蔵様の由来だとか、小さなまつりの由来だとか、そこにいるおもしろいおばあちゃんの話だとかをして、そのおばあちゃんを訪ねるとか、地域を歩いてみるとかを去年からやってみています。最近良く思っているのが、都会では農家民宿やグリーンツーリズムがまだまだ知られてないっていうことがありますので、今後はどうにかしてそれをちょっとでも知つてもらう努力をしたいと思っています。

それから昨年国際教養大学の公開講座をここで聴いた時に、外国からいらしている教授の方々が、外国の方にとって日本の農村の風景というのはとても魅力的であるということを話されまして、韓国便もあることだし、どうにか韓国や中国や、または欧米の方々が仙北市内の農村をサイクリングしてもらえないかなと思うこともありますし、今年は情報提供に力を入れたいなと、ハングルができる友達や、英語ができる友達がいるので、そういう方たちに協力をしていただけてないかなあと思っています。

◆これからはじめる人に

今朝母とも話をしたんですけども、こういう農家民宿をやりたい人に対してアドバイスってない?と話をしてみたんですが、やはり無理しないでコツコツと自分のできることをやるのが一番の近道ではないかなという結論になりました。前に発表されていた3人の方もおっしゃっていたんですけど、行政機関の方と仲良くするのが一番ポイントかなと、行政機関の方は新しい情報をたくさん持っておられるし、無料で情報の発信もしてくださるし、いろんな機関誌にも載せてくださるし、広告費がかからないので、とにかく自分の世界だけをがんばりすぎると他の見えなくなってくるので、やはり行政の方からいろんな新しい情報を教えていただいて、自分に取り入れられる点はどんどん取り入れていくと成功するというか、自分にあったものが見つけられるんじゃないかなと思います。



意見交換

～会場からの質問に応えて～

●佐々木さんに…

Q 「メリーゴーランド」と「つどいの広場ぶらんこ」の違いがよくわからなかったので詳しく説明してほしい。

A <佐々木> 「メリーゴーランド」は設立から続いている保育事業のこと、保育園と同じで、働いているお母さんたちを支援するために子どもを預かる施設です。「つどいの広場ぶらんこ」というのは育児をしている保護者を全般に対象とした施設で、主に親子で集う、親子で来る保育園のようなものだと思ってもらうよ。フリースペースで好きな時間に来て、遊んだりお母さんたちはそこにいるスタッフと子育ての悩みを相談したり他愛のない話をしたりしていくサロンのような施設です。「ぶらんこ」は空き店舗を借りてやっているので、さびれた商店街ではあるが、近くに銀行もあり、そこを通る高齢者なども立ち寄って、お茶を飲んで世間話をしていたり等、子育てに限らず一般の方もそこに来て、そこに集っている親子を見て昔の子育ての経験を伝授したり、子どもとのふれあいを通じて若返るといったスペースです。

Q 保育時間を教えてほしい。

A <佐々木> 「メリーゴーランド」は朝7時半から夜7時まで開設している。特別保育事業ということで夜間保育もやっており、夜間保育はお父さんやお母さんの仕事が終わるまでということで、とりあえず何時までということは設定していない。当初24時間という計画もしたが、秋田市と違ってそれほど需要がないので、今のところ24時間保育は実施していない。

Q 「つどいの広場ぶらんこ」で今何を必要としているか教えてほしい。

A <佐々木> 能代に住んで、子どもを産んで子どもを育てる、生きてきた子どもたちも能代に愛着を持って自分はここで一生を過ごしたいという、能代を愛する人がどんどん増えるように、自分もその活動に加わりたいという人を探している。それは現役を退いた専門性のある方や、普通の主婦、高校生、ニート世代の人なのかもしれない。子育て支援に限らず、いつか自分たちを支えてくれる子どもたちを育てよう、親たちもバックアップして育てていこうという熱い想いを持つ人たちを私たちは必要としている。

団体や個人とどのようなネットワークを作っていく

たいかということについては、今、保健師や栄養士、看護師など専門職から適切なアドバイスをもらえる仕組みづくりができるようなネットワークを作りを考えている。

Q 保育の面で高齢者との関わりをどのように考えているか。

A <佐々木>もちろん関わっていきたいと思っており、自由に立ち寄れるスペースを設けている。施設の前を通るのは高齢の人が多く、立ち寄ることもある。今後団体とのネットワークをどのように作っていくべきか検討していきたい。

●佐々木さん、笹尾さんに…

Q NPOの企画運営には

- ①バイタリティに富む若者
- ②目的に向かって一途に進むバカ者
- ③地域とは異なる考え方を持つヨソ者

この3者が必要といわれるが、実際の起業のケースで自分の役割はどれだったか。また他の2つの役割をする人をどのように見つけたか。

A <佐々木>能代は保育園が11、幼稚園も6あって、充分足りているが、そういう状況に飛び込んでいった自分はたぶん②のバカ者であったと思う。公立の保育施設は退職者がいないため、定年まで新しい人が入らないが、私たちのところは雇用条件の関係もあり人の入れ替わりがある。そういうときに若いスタッフを入れている。また地域と異なる考え方というと、ヨソから結婚して転入してきた方がスタッフの中にいるので、それにあたると思う。

A <笹尾>私のところはNPOではないが質問に答えると、私はまだ若いし、バカ者でもあるし、ヨソに出ていた期間も長かったのでヨソ者の視点ももつていて、全部だと思う。しかし私一人で足りるわけではなく、もっと人が必要である。どうやって見つけたかというと、場を作ったことで集まってきた。若い人、夢を一途に追っているバカ者もいるし、観光できた人等が立ち寄ることもある。

●山内さんに…

Q 豆腐は、具体的にどのようなものを作っているのか。

A <山内>木綿豆腐と寄せ豆腐、青大豆の木綿豆腐と寄せ豆腐、青大豆による生湯葉、厚揚げ、豆腐のみそ漬け、豆乳、卵の花玄米茶、青大豆ソフトクリームに加えて、このたび17年10月に豆乳麺を加えた。今後も豆腐に付加価値をつけて商品を開発していきたい。

Q 豆腐を作る数は目標があると思うが、全部販売することができるのか。配達する会員はどのようにしているか。1か月の売り上げ目標はあるのか。

A <山内>手作りなので、1回作る釜の量が乾燥した大豆で4kgで、多いときで12回、平均で5~6回、120~144丁。その他に厚揚げや湯葉や豆乳があるので、1日150~200丁を目安に年中無休でやっている。注文を受けて作るのでほとんど残らない。配達は1日3人でローテーションを組んでおり、午前中から午後2時くらいまで作り、その後配達している。1か月の売上金額は、1丁200円程度なので、月120~130万円を目標としており、年間で1000万円以上を目指にがんばっている。

●門脇さんに…

Q 県内の農家民宿は何軒あるのか。どのような場所にあるのか。

A <門脇>県内で専業農家で民宿を行っているのは、西木にもう1軒、角館、大曲、昭和、能代、田沢湖の7軒あり、その他に農業体験ができる民宿は田沢湖畔にたくさんある。

Q お客様はどこから来られる人が多いか。海外の農家民宿と比べて日本らしさはどのように考えているか。地域の見過ごされそうな情報はどのようにして見つけるか。

A <門脇>お客様は8割は県外で、関東が圧倒的に多い。ドイツやイギリスには食事と宿泊を提供するB&Bタイプが多いそうだが、私のところでは、癒しを求めてくる人が多いのでふれあいを大切にしている。静かであることとベランダから見渡せる景色が、こだわりとしてある。地域の情報は、地域を歩くことからはじめて、不思議に思ったことは郷土史や資料や地域のお年寄りやお坊さんに由来などを聞いている。

●4人のみなさんに…

Q 家族の協力について

A <佐々木>夫と私の仕事の時間帯が逆なので、朝私が娘の面倒を見て学校に送り出して、夜は夫が料理をして娘に食事をさせている。また私の実家が近く、両親が元気なのでお願いすることもある。子どもができた時に夫からやめてほしいとも言われたが、半年話し合い、お互いの得意な面を生かしていくと解決した。現在の家庭は、男女共同参画となっている。

A < 笹尾 > 私は独身なので、実家の両親が、思つた起業を認め、資金の協力をしてくれたこと、帰つたら食事を食べさせてくれることなどがある。

A < 山内 > この仕事を始めた当初から夫は認めて、いろいろなことに協力してくれた。家を空ける時間が多いため、夫が仕事を退職後は、炊事・洗濯・そうじと手伝つてもらっている。自分で家事をやって、はじめて家事の大変さをわかつたようだ。仕事場へ来てもらう機会を多くし、理解してもらい、協力もしてもらっている。

A < 門脇 > 普段は家族で農業をしているが、お客様が来るとときは、母が調理で私が配膳とそうじ・洗濯、父が農作業と家事をカバーすることになっている。

Q 活動にあたつて、女性といふことでの苦労や悩み、その解決方法について

A < 山内 > 女性であり母であり、いわゆる家族の中心人物であるため、急な状況に対応できるよう、いつでも替わるように3人のローテーションを組んだ。また、電話や交渉が苦手、他の人を入れることに抵抗がある等女性グループ内での特有の問題もあるが、分担してやるとともに、率先して動くようにしている。これからはどのように世代交代を進めていくかが課題である。

A < 佐々木 > 資金調達の時に女性だからといふことで相手にしてもらえなかつたが、だんだん慣れてきて団太くなってきた。また数字を求められることも多く、その説明や資料づくりが苦手だったが、学習した。しかし頼れるところを頼ることも必要。また、女性ばかりでなれ合いになりがちだが、専門性を自覚するよう努めている。

A < 門脇 > 私の場合は、祖父母の介護と民宿が重なり、父は介護があまりうまくなく、女性である母と私でやることになったことが大変なことだった。お客様に素直に相談して助言をもらつたりした。

A < 笹尾 > 起業の時に女性だからといって困つたことはなかつたが、京都では、伝統工芸の仕事をし、男の職場だったため、免疫ができたと思う。また女性が仕事をしていく上でネックになってくるのは体力だと思うが、その仕事のおかげで体力や筋肉が付いた。これから仕事をしていく女性にとっては、体力が大切だと思う。

Q これから何かをはじめたいという方へのアドバイスを

A < 佐々木 > 私はいろいろな仕事をやってみて、自分の得意なこと、やりたいことを見つけられた。

自分にあうことをいろいろなものから十分吟味して活動をはじめてほしい。

A < 笹尾 > 踏み出す瞬発力、続ける持久力、人とつながりこの3つが重要。何かやりたいことがあつたら、まず自分のできる範囲ではじめてしまつこと。はじめてから理想に近づけるために改良を重ねていくこと。大きな理想であつても、何かをはじめることで、より現実的なかたちにつながると思う。

A < 山内 > 多くの人と情報交換をすること、チャレンジ精神をもつこと、そこから一步踏み出す力が必要。なによりも家族の協力が必要である。また地元で何ができるのかを掘り起こすこと。

A < 門脇 > やろうと思ったらまず一步を踏み出し、はじめたら焦らずのんびり、自分のペース、個性を見つめてやるのがいいと思う。あとはお客様から教わりながらゆっくりやればよいと思う。

まとめ



【コーディネーター】
国際教養大学
グローバルビジネス課程
助教授 前中ひろみさん

4人の活動する分野や地域などはそれぞれ異なつてはいるが、事例発表を聞いて共通するファクターがあると感じた。それは

- ① それを取り巻く状況に「問題意識」を持ち、解決すべき課題を見出した。
- ② 「何とかしたい、自分に何かできないだろうか」と「熱意」をもつて課題解決に取り組んだ。
- ③ 一步を踏み出し行動に移す「勇気」を持っていた。
- ④ 資金調達をはじめとした「情報収集」の力があつた。
- ⑤ 家族・仲間・アドバイザーなど、活動を理解し協力してくれる「支援者」がいた。
- ⑥ 継続する「ねばり強さ」を持っていた。

活動を始めるには、猪突猛進するだけではなく、必要なことについて、気づかされたのではないか。

あきた女性チャレンジ支援連絡協議会

秋田県では、女性の様々な分野へのチャレンジを支援するために、平成17年5月に、関係機関や団体による「あきた女性チャレンジ支援連絡協議会」を設置しました。

協議会では、「あきた女性チャレンジサイト」を企画し、「あきた女性チャレンジ事例発表会」を開催しました。

<構成機関>

分野	機関名
雇用	秋田労働局雇用均等室 (財)21世紀職業財団秋田事務局 独立行政法人雇用・能力開発機構秋田センター ひとり親家庭就業自立センター
起業	(財)あきた企業活性化センター 秋田県商工会議所連合会
農業・漁業	JAあきた女性組織協議会 秋田県漁業協同組合女性部
スキルアップ	秋田県生涯学習センター 秋田市女性学習センター 秋田県働く女性の家連絡協議会
地域活動・ボランティア	NPO法人あきたパートナーシップ NPO法人環境あきた県民フォーラム 秋田ボランティア協会 あきた国際交流ネットワーク
子育て支援・介護など	子育てネットワークサポート「Willこねっと」 秋田ほっぽろうの会 (財)秋田県長寿社会振興財団
学識経験者	秋田県立大学 総合科学教育研究センター
男女共同参画	秋田県北部男女共同参画センター 秋田県中央男女共同参画センター 秋田県南部男女共同参画センター
事務局	男女共同参画課

チャレンジしたい人 応援します!!

「あきた女性チャレンジサイト」を開設しました。



このサイトは、秋田の女性のみなさんが、新しい発想や能力を活かして、さまざまな分野へチャレンジすることを応援する総合情報サイトです。みなさんがチャレンジしたい時に役立つ、支援機関や支援制度などをご紹介しています。



<http://www.akita-challenge.jp>